

島根県の医史学については、米田正治先生の「島根県医家列伝」、「続島根県医家列伝」、「島根県医学史覚書」がある。本著はそれを補足する形で多くの医師を発掘した。筆者に今後もおこの地方の医師の人間像、業績を追求していただき、米田先生亡きあとの島根県医学史研究を引き継いで欲しいと思うのは、隣県の私ばかりでないだろう。さらなる御研究の進展を望んでやまない。

(森 納)

(〒690-0402 島根県八束郡島根町二七六一、電話〇八五二一八五―二〇六七、A5判、一二〇頁、非売品)

「芸備医事」復刻発刊

『芸備医事』バックナンバーの刊行は、次の諸点において、意義ある事業として注目される可きであろう。

第一点は明治二十九年六月十二日に発行された医学総合情報誌とも言うべき本誌が創刊号より昭和十七年十二月二十五日最終号に至るまでの五五五号が欠号なく完本化され、雁皮紙を使用し、四十七冊と索引号一冊を追加し、本誌の内容は約一九、〇〇〇頁と生れかわった体裁となり、その優れた紙質と堅牢な製本は永久判として特記されなければならない。

第二点としては、本書が当地医学会である芸備医学会から起算して、平成九年で百年の記念すべき年に当るのである。

芸備医学会は節目の年度毎に、先哲の追善顕彰事業を取りあげ、総会次第の中で重要な事業の第一項目に掲げられていて、

その式典と共にその具体化する出版活動が随伴されてきたのである。

当医学会設立の原点の一つとして、まず医の心である医の倫理・道徳律に対する敬虔な回帰哲学と誓が会の開会に先だって厳粛に執行され、先覚者に対する報恩畏敬や医学の歴史についての展示、著述品が芸備医学会の名の下に習慣的に刊行されて来たのである。例えば、会の創立を記念して芸備医学会で発行されたものでは、呉秀三の『東洞全集』があり、その後百年を経て、その伝統を継承して、小川新氏監修『東洞大全集』の発行をみるが如きである。

この地に興った医学会創立百年に際し、当地区に、完全に保管されているべき筈の芸備医事は欠号だらけで活用価値も乏しいことに気付いたのである。地元・広島では公私学校図書館所蔵の『芸備医事』は原爆の災害により煙滅して了った。戦後本書の在庫は広島市外者の本誌寄贈の一部であり、医師会史など編纂する上に、資料的に不備・不便を感じていた。本書は地元のみならず、部数は少くとも全国的に講読されていることが幸いした。

その頃、津下広大名誉教授が岡大図書館鹿田分館の書庫で『芸備医学』創刊号を見つけた、その寄贈者名は赤澤乾一の蔵書印がある。赤澤は広島県北、代々医家出身で富土川専卒業で秦佐八郎と同級生であり、秦の紹介で富士川游と逢い、私淑するところとなり、芸備医学会岡山支部幹事として大いに活躍し、岡大教授田部浩と共に有名であった。